

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No. 2909

科目概要記入欄

1. 開設大学名	島根県立大学			科目開講 キャンパス	浜田キャンパス		
2. 科 目 名	正式科目名	国際開発論				クラス名	
	副題					配当年次	2, 3
						受入学年	
	旧科目名						
	学問分野	番号	23	名称	経済学		
	サテライトで開講される科目の科目群			A群	B群		
3. 担当教員名	柏木 健一						
4. 単 位 数	2 単位		5. 開講学期	春（集中）			
6. 開講期間 曜日・時間	2020 年 9 月 18 日（金）～2020 年 9 月 21 日（月）集中講義 金～月曜日 9:00～18:00						
個別開講日	1 回目 9/18	2 回目 9/19	3 回目 9/20	4 回目 9/21	5 回目 /	6 回目 /	
	7 回目 /	8 回目 /	9 回目 /	10 回目 /	11 回目 /	12 回目 /	
	13 回目 /	14 回目 /	15 回目 /	16 回目 /	試験日	/	
7. 基礎知識の有無	1. 「基礎知識を必要とする科目」 （ ） ②. 「基礎知識を必要としない科目」						
8. 募集人数 （総授業定員）	5 人 （ 人）		9. 定員超過時の 選考方法	書類選考			

10. 科目内容・ 授業計画	【概要】本講義では、開発経済学の諸理論と実際の経済開発政策の距離をはかりつつ、国際開発論における主要論点、分析枠組、課題等を概説する。また、開発のミクロ経済学についても集中的に講義を展開し、途上国と我が国の地域開発における諸課題について比較の視座から分析する。具体的には、以下のような問題について論ずる。 ①開発経済学の主要潮流（初期開発経済学から新古典派批判のパラダイムの展開） ②経済成長と構造変化（人口転換論、二重構造論、労働移動論） ③経済成長論（近代経済成長の諸理論：資本蓄積と技術進歩の源泉） ④開発のミクロ経済学（途上国における貧困発生メカニズムと人的資源開発） ⑤地域統合と経済発展（国際貿易、国際資本移動、技術移転及び地域経済統合） 【到達目標】上記のような開発経済学の諸理論の習得を通して、開発経済学についての理解を深めることを目指すことにより、学生が途上国や新興国の経済発展過程を理論的・実証的に説明でき、また、現実の経済開発政策に関して興味深い問題を提案することができる。 【授業計画】 第1回 講義概要と開発経済学を学ぶ意義 第2回 開発経済学の主要潮流：開発経済学のパラダイム変化 第3回 経済発展と構造変化（1）：人口転換論と人口ボーナス論 第4回 経済発展と構造変化（2）：二重経済論 第5回 経済発展と構造変化（3）：労働移動論 第6回 経済発展と構造変化（4）：途上国労働市場における失業と低位雇用 第7回 経済成長論（1）：近代経済成長と資本蓄積 第8回 経済成長論（2）：近代経済成長と技術進歩 第9回 経済成長論（3）：技術進歩の源泉（内生的経済成長理論） 第10回 持続可能な発展の経済学と地域開発 第11回 途上国における貧困発生メカニズムと人的資源開発 第12回 地域開発における農業の役割 第13回 地域開発における教育の役割 第14回 地域開発における貿易の役割 第15回 ランダム化比較試験 【テキスト】 特に定めない。 【参考文献】 黒崎卓・山形辰史（2004）『開発経済学：貧困削減へのアプローチ』日本評論社。 大塚啓二郎・櫻井武司（2007）『貧困と経済発展：アジアの経験とアフリカの現状』東洋経済新聞社。 ジェラルド M. マイヤー（著） 渡辺利夫・徳原悟（訳）（2004）『開発経済学概論』，岩波書店。 栃木昭文・野上裕生・山形辰史編（2003）『テキストブック開発経済学[新版]』，有斐閣ブックス。 速水佑次郎（1997）『開発経済学：諸国民の貧困と富』，総文社現代経済学選書 11。 プラナブバーダン・クリストファーウードリー（著） 福井清一・不破信彦・松下敬一郎（訳）（2001）『開発のミクロ経済学』東洋経済新報社。 渡辺利夫・佐々木郷理編（2004）『開発経済学辞典』，弘文堂。 Todaro, M. P. and S. C. Smith (2011) Economic Development, Eleventh Edition, Addison Wesley. エステル・デュフロ・レイチェル・グレナスター・マイケル・クレマー（小林庸平翻訳・解説）（2019）『政策評価のための因果関係の見つけ方：ランダム化比較試験入門』日本評論社。		
	11. 試験・評価方法	出席 20%、試験 80%（小テスト及び最終テストを実施する）	
12. 別途負担費用			
13. その他特記事項	講義中に言及する諸文献を自分で読んで自学習をすすめるなど、意欲的に学習をすすめる学生を大いに歓迎する。		
14. サテライト科目の 社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否